

★如来の慈悲（白大理石）
 アトリエ内に、少し大き目の白大理石があった。いつか大事な石仏を作るために大切に置いてあった。
 いよいよ作る時期が来たと心で感じたため、平成二十六年九月十九日から制作に入った。石に下絵の墨付けなどせず直接彫り込む「直彫り」であるが、当初から如来と子供の姿を感じるため、作ることにした。
 如来とは、通常、華美な衣装や装飾品を身に付けない姿で、修行を完成させ、真理に到達した阿弥陀如来や釈迦如来や薬師如来をいう。例外として大日如来がある。
 大日如来は他の如来と異なり豪華絢爛たる宝飾品を身に着け、髻まげを表す像もあるが、今回の如来は、仏の知恵を表す頭頂部のこぶのような二段の盛り上がりがある肉



創作・如来像の慈愛（47×32.1×32.7cm）

に下絵

（複製権）侵害や著作人格権（同一性保持権）侵害となる。
 平成24年3月9日付、名古屋地方裁判所に、同侵害共に京都市と高松市の大手石材業者を相手に訴状を起こし、平成25年4月13日に裁判所から認められ勝訴する。

仏像は確かに模倣の繰り返しで、何百年も続いている。ここでは、新しい発想の芽を摘む。創作は以っての外。同じ物を繰り返し返すことで「形」を守り、腕や手は熟練するが半面、技量の低下を招き、生命を失う。

私と兄は違った。前例のある仏像作りではなく、まだ見ぬ、これまで誰も到達できなかった領域に挑戦する。製品から作品の道を歩む。

★御仏を作る心がまえ

- 一、無理なく「おだやかな」気持ちで作ること。
- 一、力をぬいた「おおらかさ」を心の中で持ち続けること。
- 一、「目はきつさ」、「鼻は気品」、「口許は微笑」を表し、三点がほどよく合わさると、作られた御仏から受ける顔の表情が良く、慈悲の層へと一歩近づく。
- 一、良い顔とは、墨を半紙に落としたときのように、外へ無限大の広さをもって広がろうとする。



童子地藏菩薩跪座像（左）、伎芸天胸像
 平成11年にイギリスの大英博物館に永久収蔵される。